

教理研究院

サンクチュアリ教会およびUCIを支持する人々の言説の誤り(19)

UCI(いわゆる「郭グループ」)を支持する人々は、金鍾奭著『統一教会の分裂』の日本語訳を広めてきました。今回は、この書籍が述べる一つ目の「真の父母様宣布文」批判の、虚偽、について取り上げます。
なお、これらの内容を総合的に理解し把握するためには、「真の父母様宣布文サイト」(http://trueparents.jp/)の掲載文や映像をごらんください。

教理研究院

注、真の父母様のみ言は「青い字」で、UCIおよび反対派の主張は「茶色の字」で区別しています。

二十三、一つ目の「真の父母様宣布文」の真実

二〇一〇年六月五日、真の父母様が作成された一つ目の「真の父母様宣布文」(以下、「最初の宣布文」)に対し、金鍾奭著『統一教会の分裂』は「創始者(注、真のお父様)の『異端者・爆破者』宣布文」と呼び、そこに込められた真の父母様の真意をゆがめています。
二〇〇八年四月、亨進様が世界会長に就任した頃から、顕進

様は真の父母様の指導や指示に従わず、別の動きをすることが顕在化するようになりました。
二〇〇九年三月八日、いわゆる「束草事件」のとき、真のお父様は「顕進、おまえも別の所に行かず、父の所に来て、父に付いて回りなさい」(マルスム選集609-133)と命じられましたが、顕進様は従わず、同年九月十日を最後に、真の父母様の前に姿を見せなくなりました。
そのような状況の中、二〇一

〇年六月五日、真の父母様は「最初の宣布文」を作成し、その映像を公開されました。

この「最初の宣布文」を、「統一教会の分裂」は「創始者の『異端者・爆破者』宣布文」(173ページ)と呼び、それが「統一教会から文顯進を完全に除去するために作成された作品」(同)であるとし、さらに、これを「文亨進は自身が創始者の『代身者・相続者』(同)と主張する核心的根拠として」と述べています。(注、真の父母様宣布文サイトに掲載した「真の父母様宣布文」は、二〇一一年五月二十五日、真の父母様が発表された二つ目の宣布文です)

「統一教会の分裂」は、「最初の宣布文」の作成過程における真の父母様の会話の一部を削除し、意図的に編集を加え、「最初の宣布文」に込められた真の父母様の真意(心情、事情、願い)を隠蔽しています。

真の父母様宣布文サイトはこちらから↓



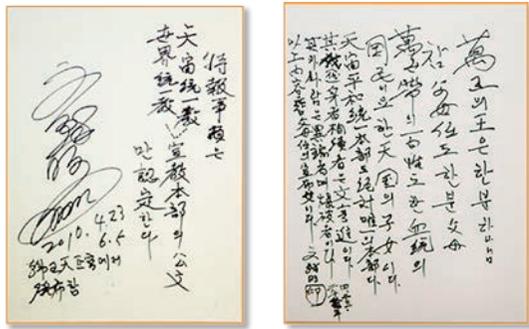
(1)「最初の宣布文」の真実
①「最初の宣布文」を一部意図的に削除

『統一教会の分裂』173ページは、「最初の宣布文」を次のように引用します。
「万王の王は一人の神様、真の父母様も一人の父母、万世代の民も一つの血統の国民であり、一つの天国の子女である。天宙平和統一本部も絶対唯一の本部である。その代身者・相続者は文亨進である。それ以外の人は異端者であり爆破者である。以上の内容は、真の父母様の宣布文である。二〇一〇年六月五日文鮮明」

『統一教会の分裂』はこの部分だけを用い、「最初の宣布文」が「創始者の『異端者・爆破者』宣布文」だと主張します。しかし「最初の宣布文」は、これだけではありません。以下、引用します。
「特報事項は天宙統一教、世

界統一教宣教本部の公文のみ認定する。2010年(天曆)4月23日(陽曆)6月5日、韓国天正宮(博物館)で發布する。文鮮明」

『統一教会の分裂』は、色紙の裏側に書かれたこの「特報事項」を意図的に削除し、隠蔽しています。同書は「特報事項」における真の父母様と亨進様とのやり取りを部分的に記載して



「最初の宣布文」が記された色紙の表側(右)と裏側(左)

はいませんが、核心的なみ言は全て削除しています。実は、その削除部分こそ「最初の宣布文」における真の父母様の真意があるのです。
真のお父様が「最初の宣布文」を作成されている動画は18分10秒の映像ですが、『統一教会の分裂』は、そのうち13分03秒までの映像の会話だけを記載し、それ以降のみ言を全て削除しています。

真のお父様は「特報事項」を色紙に書かれ、「天宙統一教、世界統一教宣教本部の公文のみ認定する。文鮮明。2010年(天曆)4月23日。韓国天正宮(博物館)で發布する」(動画16分47秒〜17分03秒)と語っておられ、その色紙に対し、お父様は「これとこれ二つ、表裏で一つだ。内と外。事実である」(動画17分09〜12秒)と語っておられます。この部分のみ言が『統一教会の分裂』には全く記載されていません。

「これとこれ二つ」とは、色紙の裏面に書かれた内容であり、「表裏で一つ」とは、色紙の表側と裏側で一つの宣布文という意味です。色紙の表側と裏側の内容は「最初の宣布文」の「内と外」の関係であり、真のお父様が言われるとおり「事実」なのです。
ところが『統一教会の分裂』は動画の13分04秒以降のみ言を削除して「特報事項」を隠蔽し、「最初の宣布文」を表側だけで「創始者の『異端者・爆破者』宣布文」と呼ぶことで真意をゆがめているのです。

②「最初の宣布文」が、真のお父様の「宗教的生命と神性を破壊」したという、虚偽

『統一教会の分裂』は、この「最初の宣布文」が、真のお父様の「宗教的生命と神性を破壊」したと述べています。

「創始者の宗教的生命はこの動画と宣布文の拡散によって殺

害されたのである。……創始者のカリスマは、無能で貪欲であり、世俗的なレベルに転落した。この動画と宣布文を企画し流布した者は、創始者のカリスマを崩壊させ、彼の宗教的生命と神性を破壊した者である」(175〜176ページ)

これはいつもどおり、『統一教会の分裂』の虚偽のストーリーに基づく誤った主張です。『統一教会の分裂』169ページには、真のお父様が色紙の表側を書かれたあと、真のお母様や亨進様と次のようなやり取りをされたと記されています。
「韓鶴子…これ、全部出してもいいですか?
文亨進…言葉がちよっと強いから…」

韓鶴子…これは少し強すぎるから。創始者…何。
韓鶴子…これ、全部インターネットに上げる?
創始者…上げなきゃ」

真のお父様が「それ以外の人は異端者であり爆破者である」と書かれたあと、真のお母様や亨進様はそれに対し「言葉がちょっと強い」と躊躇しておられます。お母様が「これ、全部インターネットに上げる？」とお父様に尋ねられると、お父様は「上げなきゃ」と語られ、その後、お母様は次のように語られたとあります。

「韓鶴子：全ての宣教国は全て、あの全ての統一の民は世界宣教本部の公文の指示事項のみ認めるということにサインするのは嫌ですか？（そのようにして）インターネットに上げれば、何の欠点もありません。顯進だけ、食口が知れば、顯進は言うことを聞きません。これ（全判、全体の内容を書かれたもの）は保管しますよ」（169ページ）

この傍線部分の翻訳は正しくありません。「食口が知れば、顯進の言うことを聞きません」

張です。まず、「最初の宣布文」の作成に至るまでの顯進様の動きを理解しなければなりません。

①「最初の宣布文」作成に至るまでの経緯

二〇〇九年三月八日、いわゆる「東草事件」のとき、真のお父様は人事措置をされました。

『統一教会の分裂』は、それを「文顯進UPF及びGPF会長停職」（150ページ）と述べていますが、実際は、真のお父様は「金起勳を顯進の代身として立てるのです。顯進は勉強しなければなりません。……アベルを神様とアダム、エバよりもっと愛さなければならぬのです」（マルスム選集609-131）と語られています。

真のお父様は、このとき顯進様に対し「UPF会長とGPFを一年間休み、金起勳牧師が代わりにする」よう人事措置をされました。しかし、顯進様はそれを無視し、「フィリピンGP

が正しい翻訳です。「顯進」ではなく「顯進の」です。すなわち、真のお母様は宣布文の裏側の「特報事項」である「世界統一宣教本部の公文のみ認定する」を「食口が知れば、（食口は）顯進の言うことを聞きません」と語られ、「これ（色紙）は保管しますよ」と語っておられるのです。ところが『統一教会の分裂』は、表側の内容を「食口が知れば、顯進は言うことを聞きません」だから「これ（色紙）は保管しますよ」と語っておられるかのように改竄しています。そして、真のお父様はお母様に次のように語られたと述べています。

「創始者：保管って誰が保管するの。そうするんだよ全部」（同）

これはみ言の隠蔽による改竄です。改竄した部分を青色で表示し、正確に表記します。

「創始者：保管って、保管で

はなくこれを宣布しなくては、誰が保管するの。これを宣布しなさいというのです」（動画4分28～33秒）

『統一教会の分裂』は、真のお父様が「保管って誰が保管するの。そうするんだよ全部」と語られたかのようにみ言を改竄します。つまり、お父様が「最初の宣布文」をネットに上げずに保管しておきなさいと指示されたかのように描写しているのです。

しかし、真のお父様は「保管ではなくこれを宣布しなくては、誰が保管するの。これを宣布しなさい」と強く命じておられます。

『統一教会の分裂』がこのように改竄するのは、真のお父様が「最初の宣布文」の内容を人々が知りえないよう保管しなさいと指示したにもかかわらず、真のお母様と亨進様が「動画と宣布文を企画し流布した者」（1

75ページ）であると描き、それによって、お母様が「創始者のカリスマを崩壊させ、彼の宗教的生命と神性を破壊した者」（175～176ページ）であるかのように印象づけ、お母様をおとしめるためです。

つまり、真のお父様ご自身が「最初の宣布文」を「保管ではなくこれを宣布しなくては」ならないと指示しておられたのであって、「（お父様の）宗教的生命はこの動画と宣布文の拡散によって殺害された」という事実はなくない、というのが事の真相なのです。

(2)「最初の宣布文」は、顯進様を「除去するために作成された作品」ではない

『統一教会の分裂』は、「最初の宣布文」とは、真のお母様が「統一教会から文顯進を完全に除去するために作成された作品」（173ページ）であるとします。

しかし、これは「虚偽」の主

Cを二〇〇九年十二月に予定通り推進しよう」（162ページ）としたのです。顯進様は同年十一月二十日、お父様に宛てて次のような書信を送っています。「私は状況がどうであれ、ここで決まらなくては退くことはできません。……十二月十日から十四日まで、フィリピンのマニラで開催されるGPCは、中断されたり延期されることはありません。……お父様が透明かつ公正に中心を掴んで導いて来られた神様の摂理を原理的でない方法で左右しようとするこ

分裂』は、「創始者の意図を守るために行くべき道を行く」という文顯進の意志が現れている」と持ち上げますが、実際は、お父様の指示に対し「到底、従うことができません」と明言する「不従順宣言」であり、そこには「お父様の意図に反しても自分の道を行く」という、お父様が願われる原理的な「一体化」を無視する姿勢が現れています。お父様の本来の意図は、「顯進が（金起勳氏に）待つて協助する立場に立つ」（マルスム選集609-134）ことを通して、「アベルを神様とアダム、エバよりもっと愛さなければならぬ」という「カイン・アベルの関係」を学ばせるためのものでした。しかし、顯進様はそれに従わず、同年十二月十日、「フィリピンを訪問してGPCを強行」（164ページ）しました。

顯進様は、真のお父様の人事措置を無視し、「状況がどうであれ、ここで決まらなくては退くことはできません。……GPCは、中断されたり延期されることはありません。……到底、従うことができません」と述べています。それを『統一教会の

は、二〇一〇年五月末、顯進様が「ブラジルを訪問し、ピ

シヨップ・フェレイラと会い南米GPF活動の支援を得るなど、活発な活動」（165ページ）をしていたと記し、同年五月三十日「ブラジル教会を訪問した際、責任者である申東謀が韓国本部の指示により文顯進が教会の壇上に立てないように」（同）しようとする出来事が起こったと述べます。当時、南米の大陸会長であった申東謀氏は「統一教会人たちに引き摺り下ろされ」（同）、顯進様がブラジル教会の壇上と本部を占拠し集会を行ったというのです。

『統一教会の分裂』は、「韓国本部の指示により文顯進が教会の壇上に立てないように」と述べていますが、二〇一〇年六月二日付の「世界宣教本部」（当時）の公文によれば、顯進様のブラジル教会訪問と日曜礼拝での集会の件で、申東謀大陸会長の世界宣教本部の公文を通じ、真の父母様から「特別指示」を受けていたのです。それは、顯

進様は「真の父母様の許諾なく公式的な食口集会で説教をできない」ということでした。

さらに、翌日の早朝訓読会で、顯進様が「彼（申東謀氏）の頭を小突き、座っている申東謀の足を蹴る」（166ページ）という暴力事件を起しました。

このことで、同年六月二日付の「世界宣教本部」の公文を通じ、真の父母様の特別指示が再度あり、それは「真の父母様はこのような暴力は絶対に容認できず、今後、顯進様は真の父母様の裁可を受けずしては、絶対に公式的な集会や教会で講演や説教を行ってはならない」という内容でした。顯進様のこの暴力事件について、『統一教会の分裂』も「非統一教会人の観点からすると、文顯進の行為は非道徳的であり、暴力的であり、合理化しにくいのは事実である」（同）と認めています。

このように顯進様の一連の行動は、真のお父様の人事措置に
 このように、真のお母様はブラジル教会の事件によって、混乱が「さらに広がる」ことができなようにしようとされ、「特報事項」の内容を真のお父様にお願いされたのです。

そして真のお父様が、このような混乱が「広がれば、天が放っておかない。連れていってしまうよ。全て」と語られたことに対して真のお母様は深刻な思いで、事件の当事者が「その前に悔い改めていけるように」との切なる心情を吐露されたのです。

このように「最初の宣布文」とは、顯進様を「除去するため」に作成された作品ではなく、ブラジルで生じた混乱を收拾するためのものであり、顯進様やUCI側の人物が「悔い改めていけるように」としようとされたものです。ところが、『統一教会の分裂』は、そのような真の父母様の心情、事情、願いを無視し、み言の隠蔽によって、そ

対する不従順、真の父母様の特別指示や「世界宣教本部」の公文に対する無視、さらには責任者に対する暴行にまでエスカレートしてしまいました。これが、真の父母様が「最初の宣布文」を作成するに至るまでの経緯です。

②「最初の宣布文」作成に込められた真の父母様の願い

真のお父様が「最初の宣布文」を色紙の表側に書かれたあと、お父様と真のお母様が会話された内容が『統一教会の分裂』（169～173ページ）に書かれています。

真のお母様は、「全ての宣教国は全て、あの全ての統一の民は世界宣教本部の公文の指示事項のみ認めるというここにサインするのは嫌ですか？」と真のお父様に何度もお願いされ、お父様が「なぜ、しきりにそうなの？」と理由を尋ねられると、お母様は「宣教本部を認めない

から」「世界宣教本部から出る公文だけ、民は認める、これですよ。…：食口を教育をしなれば」「法人を受けた名前を無視するんですよ、顯進が」「無知な食口は、これ、宣教本部から出る公文は偽者だ。これではいけないから」等々と語っておられます。

これは、前述したブラジル教会で起こった事件に関連している内容です。なぜなら、「顯進様」が「真の父母様の許諾なく公式的な食口集会で説教をできない」という真の父母様の指示を、「世界宣教本部」の公文を通じてブラジル本部に事前に送り、問題を解決しよう伝えたにもかかわらず、申東謀氏は「統一教会人たちに引き摺り下ろされ」、顯進様がブラジル教会の壇上と本部を占拠し集会を行ったからです。このような事態による混乱を收拾するため、真のお母様は食口の教育のために色紙の裏側の「特報事項」の「世

界統一教宣教本部の公文のみ認定する」という内容を書かれるよう何度もお願いされたのです。

しかし、『統一教会の分裂』は、「統一教会から文顯進を完全に除去するために作成された」という虚偽のストーリーを描くために、色紙の裏側の「特報事項」や、真のお父様とお母様の会話のやり取りの核心部分を全て削除しているのです。

真のお父様は「最初の宣布文」の裏側に「特報事項」を書き、それを真のお母様に渡されて次のように会話しておられます。

真のお母様「ありがとうございます。二度三度、申し上げます。何度も、二度三度、申し上げて、申し訳ありません。事が、さらに広がる可能性があります。改めていけるように」

語っておられるように、表側だけで判断してはなりません。

『統一教会の分裂』は、裏側を隠蔽することで、かえって亨進様に「文亨進が『代身者・相統者』だと主張する余地を与えてしまっています。しかし、『最初の宣布文』の表側の「その代身者、相統者は文亨進」という部分だけをもって、亨進様が「自身が創始者の『代身者・相統者』」（173ページ）と主張できる核心的根拠とはなりません。真のお父様と真のお母様、亨進様のやり取りを映した「寝室の動画はこの証拠」（同）です。

『統一教会の分裂』（168～173ページ）には、「寝室の動画」の内容を記載しています。その主要な内容は「最初の宣布文」の裏側に書かれた「特報事項」についてのやり取りです。ところが、『統一教会の分裂』は、「最初の宣布文」が表側だけかのように描いているの

です。それは、まるで「韓鶴子の強力な要求に応じて、創始者は最初の宣布文を作成した」（173ページ）かのように偽っているものすぎません。「最初の宣布文」は色紙の「表裏で一つ」なのに、裏側の「特報事項」を隠蔽しているため、「最初の宣布文」としての内容を的確に記述していません。

真のお父様が「特報事項」を書き終えたあと、真のお母様はそこで初めて「ありがとうございます。二度三度、申し上げます。何度も、二度三度、申し上げます。改めていけるように」

「天宙平和統一連合本部は、本部も絶対唯一本部である。この本部が二つであるわけにはいかない」（169ページ）

このように、真のお父様は「本部が二つであるわけにはいかない」と語られ、また、「最初の宣布文」は色紙の「表裏で一つ」だと語っておられます。

そして、「最初の宣布文」の表側にある「宇宙平和統一本部」とは、その裏側の「世界統一教宣教本部」のことを指しているのです。「世界統一教宣教本部」とは「世界平和統一家庭連合世界宣教本部」のことであり、その「公文のみ認定する」と真の父母様は宣布されたのです。「寝室の動画」の中で、真のお母様は次のように語っておられます。「世界宣教本部会長の話だけを聞け……それがお父さんのみ言葉ではないですか？……亨進の名前立てるわけでもなく、ただ、お父さんの名前で、世界宣教本部から出る公文だけ、民は認めろ、これですよ」(169〜170ページ)

このように、真のお母様は

「亨進の名前立てるわけでもなく」と述べ、「世界宣教本部会長の話だけを聞き、「世界宣教本部から出る公文だけ、民は認めろ」と語っておられるように、裏側の「特報事項」を強調しておられます。「亨進の名前立てるわけでもなく」とあるように、この宣布文は、亨進様が「創始者の『代身者・相続者』」であると宣布されたものではありません。家庭連合の「世界会長」というその位置こそが、真の父母様の「代身者・相続者」という立場であるということなのです。

二〇一八年現在、亨進様は「統一教会を離脱」しており、家庭連合の世界会長の立場ではありません。現在の亨進様は、真の父母様の「代身者・相続者」という立場の「世界会長」という位置から完全に離脱しているのです。

さらに、亨進様は非原理集団・サンクチュアリ教会を立ち

上げ、真のお母様を「墮落したエバ、バビロンの淫婦、レズビアン」(173ページ)と非難し、今では、真のお父様と姜賢實氏を「結婚」させ、姜賢實氏が「真の母」だと偽る歴史的な重罪を犯しています。(注、このお父様と姜賢實氏の「結婚」の問題点については、真の父母様宣布文サイトの映像「姜賢實氏の再婚問題とサンクチュアリ教会の『祝福式』が示す異端性」を参照のこと。 https://trueparents.jp/?page_id=1352)

まさに、亨進様の今の姿は「異端者であり爆破者」の姿なのです。「最初の宣布文」は、「統一教会から文顯進を完全に除去するために作成された作品」でも、亨進様が「創始者の『代身者・相続者』」であると宣布したものでありません。「最初の宣布文」とは、真の子女様が真の父母様を否定することによって宣布せざるをえなかったもので

あり、真の父母様が悲痛な心情をもって作成されたものなのです。

ところが、『統一教会の分裂』は、そのような真の父母様の名言を改竄し、顯進様を悲劇の犠牲者として祭り上げようとしています。

二〇〇九年十一月十四日、当時、世界会長であった亨進様が、真のお父様の指示により「顯進お兄さんが、真の父母様に従わなければ、統一教会の人たちは従ってはいけません。……私(亨進様)が、真の父母様を否定したり、真の父母様に従わなかったりすれば、統一教会の人たちは、私に従ってはいけません」と語っているように、私たちは天の父母様(神様)と真の父母様の願いに従ってひたすら前進すべきであり、真の父母様を否定している『統一教会の分裂』の「虚偽のストーリー」にだまされてはいけません。